想い通りで聖火をつなぐ
東京 2020 オリンピック聖火リレー

「東京 2020 オリンピック聖火リレー」は4月21日、愛媛県に到着し、当町では6人のランナーが「想い通り(町道筒井徳丸線)」を走りました。

町民を代表してランナーに選ばれたのは、河野愛禾さん＝西古泉＝と小笠原峰士さん＝永田出身＝。それぞれ第1区間と第6区間を担当し、笑顔で聖火をつなぎました。

2日間に渡って県内20市町を巡った聖火は、この後もランナーたちの想いをのせてゴールの東京都を目指します。

1

2

3

4

5

6

7

1_第1区間を走る河野さん。笑顔でスタート
2・**3**_感染症予防を徹底しながら沿道で応援
4_第6区間で待つ小笠原さん。カメラにピースを向けてリラックス　**5**_想いをつなぐ「トーチキス」
6_つないだ聖火は久万高原町へ　**7**_魚の行商「おたたさん」も沿道で応援

Runner Interview

河野 愛禾(あいか)さん（写真㊥）

想い通りは普段通学路として通っている身近な道路。走ってみるとまた違った景色で新鮮でした。トーチは想像より重く、片腕で持ち続けるのは大変でしたが、沿道の皆さんが手を振ってくれたので笑顔で走り切ることができました。

小笠原 峰士(たかし)さん（写真㊨）

一生に一度、あるかないかの貴重な機会なので、1年延期になったものの聖火リレーが開催されたことに感謝しています。自分のトーチに火が付いたときは、聖火をつなぐ一員になれたことを実感し、うれしかったです。